

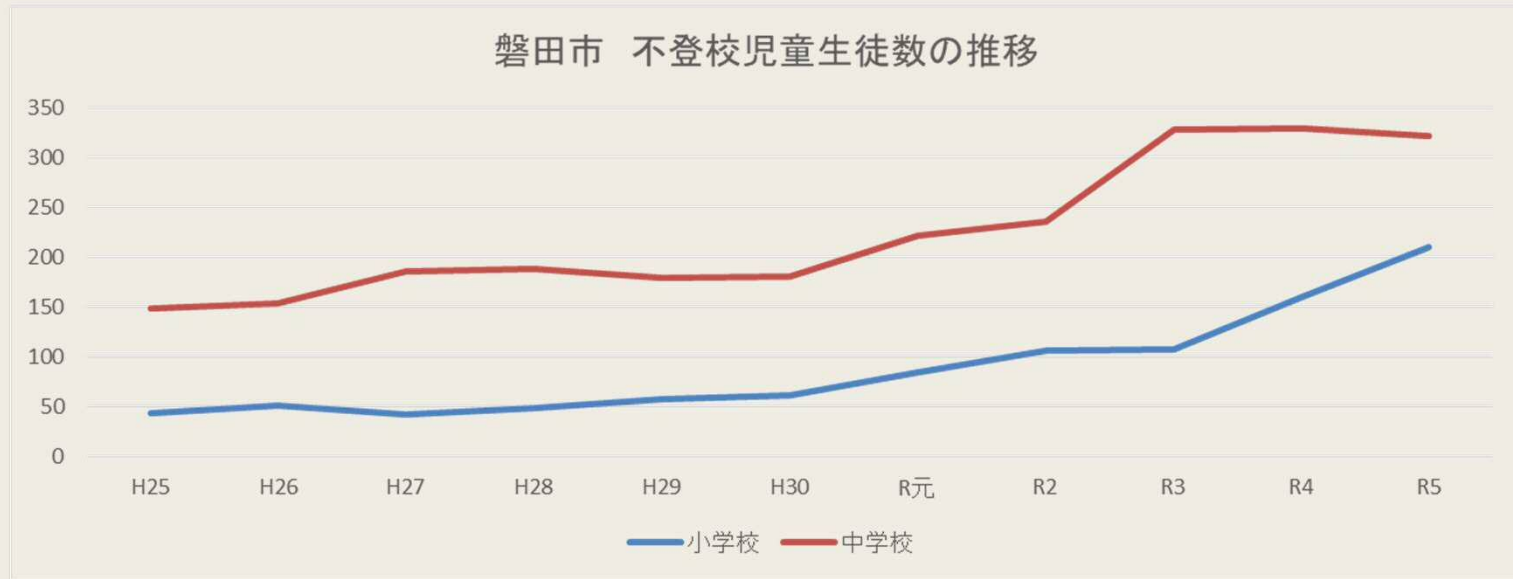
磐田市の 不登校支援 について

2024年12月12日（木）
磐田市総合教育会議

1) 不登校の傾向について



不登校児童生徒数の推移

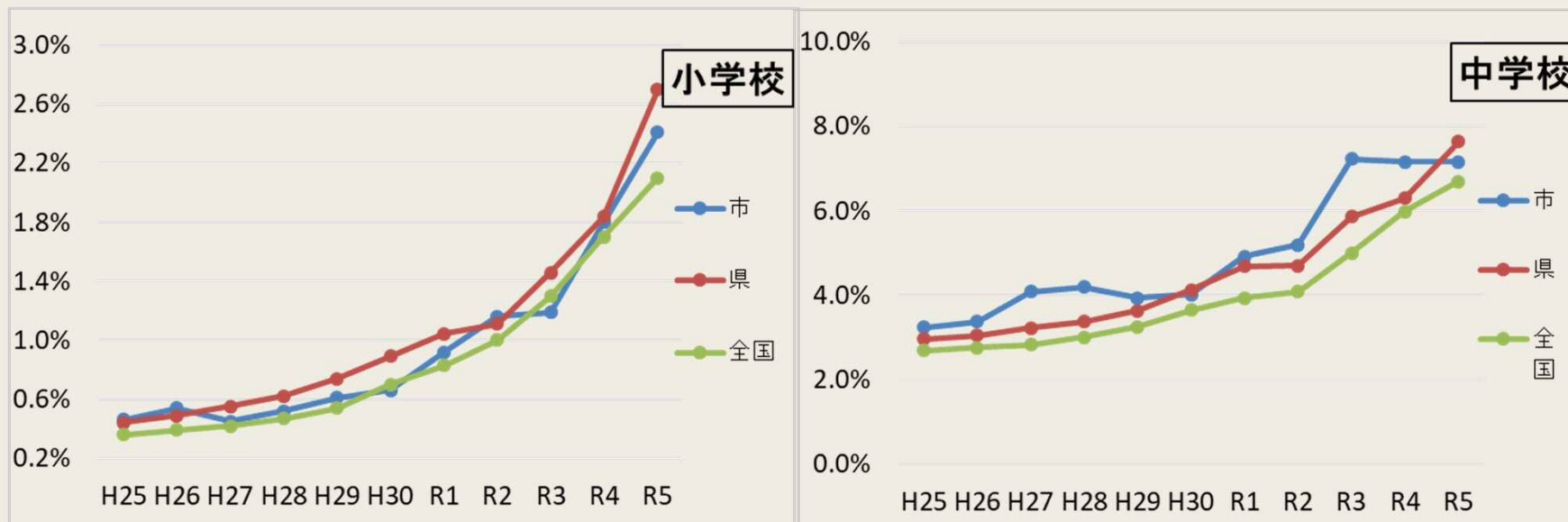


	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5
小学校	43人	51人	42人	49人	57人	62人	85人	106人	108人	160人	210人
中学校	149人	154人	186人	189人	179人	181人	222人	236人	328人	329人	322人

- ・小学校はコロナ期以降急増している。
- ・中学校はコロナ期で急増したが、令和3年度からほぼ横ばい。

不登校児童生徒出現率の比較(全国：県：市)

不登校児童生徒出現率



- ・前年度と比べると、小・中ともに全国平均よりも高いが、県平均よりも下回った。(中学校が県平均を下回るのは15年ぶり)
- ・過去10年の推移:コロナ禍以降、小学校は急増。

継続/新規の内訳

磐田市 学年別新規・継続不登校児童生徒数



- ① 学年が上がるにつれ不登校児童生徒数は増える（中3以外）
→ 一度不登校に陥ると復帰が難しい。
- ② 中1での新規不登校生徒数が急増。
→ 丁寧な小中接続を。
- ③ 小1から一定数の不登校は現れる。
→ 丁寧な幼保こ小の接続を。

「つながり」が確認できない児童生徒数の比較（文科省調査）

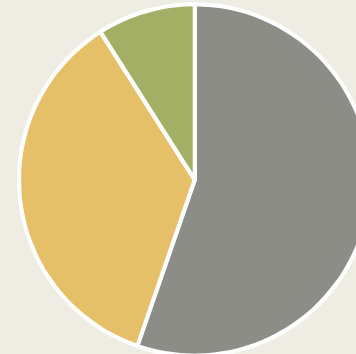
学校内外の機関等で専門的な相談・指導等を受けていない児童生徒数

【小学校】 学校内外とのつながり



- 学校内外で専門的指導を受けた
- 担任等から定期的な指導を受けた
- どちらも受けていない

【中学校】 学校内外とのつながり



- 学校内外で専門的指導を受けた
- 担任等から定期的な指導を受けた
- どちらも受けていない

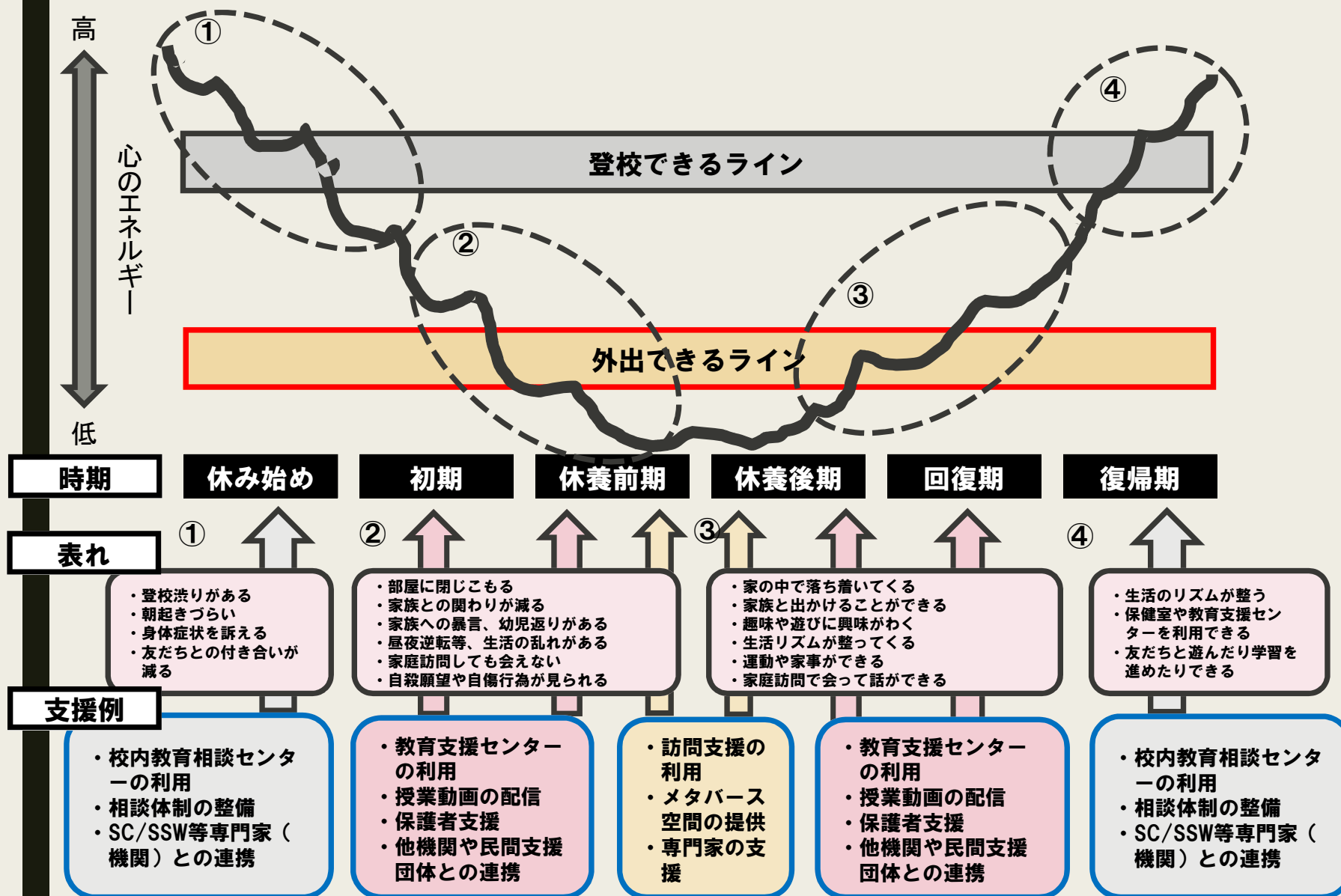
・学校内外の専門的な指導を受けていない児童生徒のうち、大半の者は担任等からの定期的（週に1回程度）の指導を受けているが、その両方の支援が届いていない者もいる。

・小・中ともに、学校内外とのつながりがない児童生徒の割合が全国値よりも高い。

(2) 磐田市の不登校施策について



不登校児童生徒への支援方法



参考 『NPOカタリバがみんなと作った 不登校一親子のための教科書』 著:今村久美

施策1 安心・安全な学校づくりの推進

⇒すべての児童生徒にとって、学校を安心できる居場所にする

- ・魅力ある学校づくりの推進
 - 分かりやすい授業・探究的な学びの推進
 - 子どもの意見を尊重した学校運営の推進
- ・生活アンケートを通じた学校の風土の調査及び改善
- ・ピアサポート等、SSTプログラムの紹介・実施
- ・不登校対策リーフレットの改訂および周知の徹底



施策2 校内教育支援センターの拡充

⇒校内における学びの場及び居場所の確保

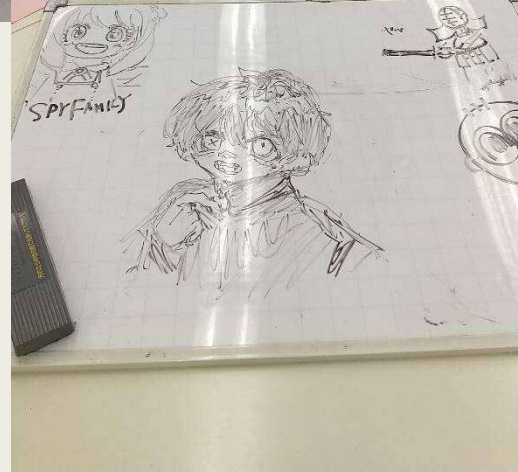
○既設の心の教室の**運営方針**の検討 →磐田市版校内教育支援センター

- ・全中学校と4小学校(磐田北、東部、福田、竜洋西)に配置
- ・配置時間を週20時間(4H×5D)に増加

○**未設置校への支援方法**の検討

- ・R6年度は磐田南小及び長野小にて「**拠点/巡回方式**」を検証中

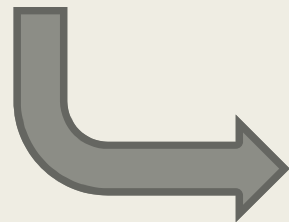






磐田市版校内教育支援センターの運営方針（案）抜粋

- (1) 安全かつ安心できる居場所づくり
- (2) 個々の状況を踏まえた成長の場づくり
- (3) 新たな学びの在り方を共有する場づくり



施策3 校外教育支援センターの拡充

⇒ 校外における多様な学びの場及び居場所の提供

- ・あすなる1、あすなる2の機能強化
- ・R6年夏より**第3の教育支援センター(公設民営フリースクール型)**の運営を開始
- ・他の公的機関や民間団体との連携の強化

【あすなる】



【あすなる2】

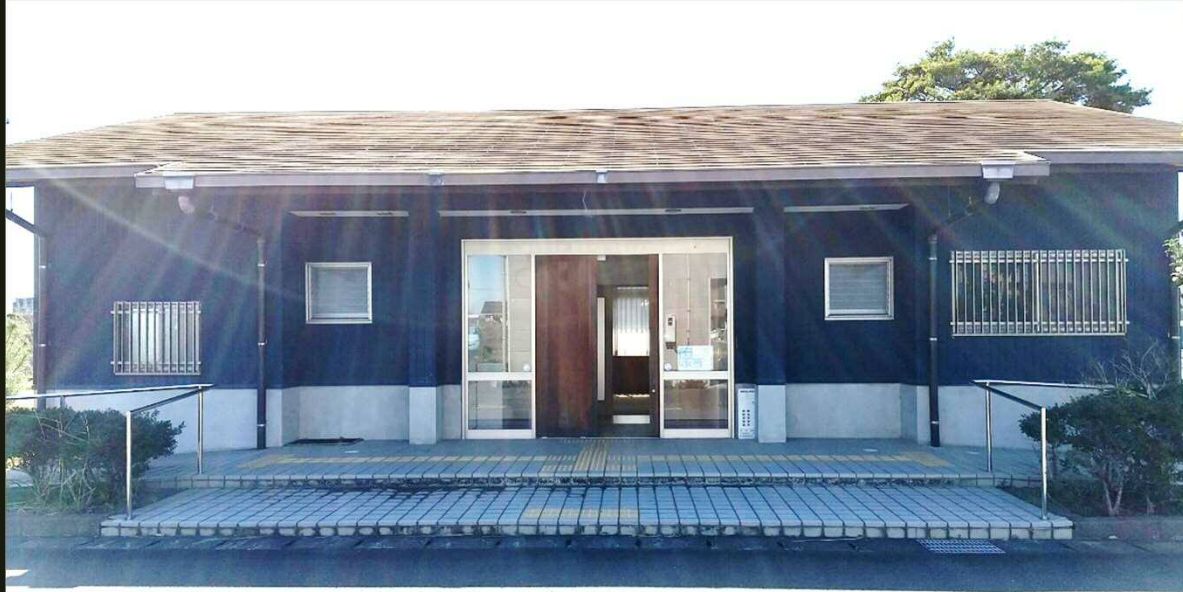


【第3の教育支援センター】



磐田市教育支援センターの特色について

教育支援センター (通称：あすなろ)	住所 字、番地	特徴	活動内容																		
教育支援センター (あすなろ1)	弥藤太島 500-1	<ul style="list-style-type: none"> ● 集団生活を通して、集団や社会への適応能力の育成に努める。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>10時～12時</th> <th>13時～15時</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>月</td> <td>自主学習</td> <td>掃除・栽培活動</td> </tr> <tr> <td>火</td> <td>自主学習</td> <td>交流活動</td> </tr> <tr> <td>水</td> <td>自主学習</td> <td>一斉授業の日</td> </tr> <tr> <td>木</td> <td>スポーツ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金</td> <td>自主学習</td> <td>体験活動</td> </tr> </tbody> </table>		10時～12時	13時～15時	月	自主学習	掃除・栽培活動	火	自主学習	交流活動	水	自主学習	一斉授業の日	木	スポーツ		金	自主学習	体験活動
	10時～12時	13時～15時																			
月	自主学習	掃除・栽培活動																			
火	自主学習	交流活動																			
水	自主学習	一斉授業の日																			
木	スポーツ																				
金	自主学習	体験活動																			
教育支援センター (あすなろ2)	見付 2386-7	<ul style="list-style-type: none"> ● 1対1の関わりや小集団での活動を通して、集団や社会への適応能力の育成に努める。 ● こども若者相談「ほっと」と施設を共用。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>9時～12時30分</th> <th>13時30分～15時</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>月</td> <td>個別活動</td> <td>個別相談</td> </tr> <tr> <td>火</td> <td>個別活動</td> <td>個別相談</td> </tr> <tr> <td>水</td> <td>個別活動</td> <td>個別相談</td> </tr> <tr> <td>木</td> <td>個別活動</td> <td>個別相談</td> </tr> <tr> <td>金</td> <td>個別活動</td> <td>個別相談</td> </tr> </tbody> </table>		9時～12時30分	13時30分～15時	月	個別活動	個別相談	火	個別活動	個別相談	水	個別活動	個別相談	木	個別活動	個別相談	金	個別活動	個別相談
	9時～12時30分	13時30分～15時																			
月	個別活動	個別相談																			
火	個別活動	個別相談																			
水	個別活動	個別相談																			
木	個別活動	個別相談																			
金	個別活動	個別相談																			
第3の教育支援センター	堀之内 7-1	<ul style="list-style-type: none"> ● 多様なニーズに応じた多様な過ごし方をすることを通して、心のエネルギーの回復を図り、集団や社会への適応能力の育成に努める。 ● 事業を民間委託することで、民間のノウハウや提案力を活用する。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>9時～15時</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>月</td> <td>自由時間の活動</td> </tr> <tr> <td>火</td> <td>(基本活動、学習活動、創作活動、</td> </tr> <tr> <td>水</td> <td>スポーツ、自然体験、SST等)</td> </tr> <tr> <td>木</td> <td>体験活動 (モノづくり、調理体験、eSPORTS等)</td> </tr> <tr> <td>金</td> <td>個別活動 (読書、音楽鑑賞等)</td> </tr> </tbody> </table>		9時～15時	月	自由時間の活動	火	(基本活動、学習活動、創作活動、	水	スポーツ、自然体験、SST等)	木	体験活動 (モノづくり、調理体験、eSPORTS等)	金	個別活動 (読書、音楽鑑賞等)						
	9時～15時																				
月	自由時間の活動																				
火	(基本活動、学習活動、創作活動、																				
水	スポーツ、自然体験、SST等)																				
木	体験活動 (モノづくり、調理体験、eSPORTS等)																				
金	個別活動 (読書、音楽鑑賞等)																				





施策4 タブレットを用いた相談・発見体制の整備

⇒ 心の小さなSOSを見逃さず、

「チーム学校」で支援する体制の整備

- ・web相談窓口等の整備及び検証

Web相談窓口等の成果例	回答校数
児童生徒の声に早く気付くことができた	22
当該児童生徒を意識的に見守るきっかけになった	16
いじめを早期発見できた	15
SCやSSWにつなげることができた	3

- ・心の健康観察アプリの検証計画

施策5 保護者支援の拡充

⇒アウトリーチ型を含む保護者支援体制の整備

- ・官民の支援体制を整理したリーフレットの一斉配信(情報提供)
- ・こども若者家庭センターとの相談体制を強化
- ・専門機関(SC,SSW等)との連携

学校への登校について
不安や困りごと、ありませんか？



学校に行きたがらない

- 学校から帰ってくるといつも疲れている
- 学校に行こうとすると頭やお腹が痛くなる
- 家や自分の部屋から出たがらない

子どもへの接し方が分からない

- 子どもに学校に行くよう働きかけてよいか
- 学校に行かない理由を聞いてよいか
- 理由を聞いてもよく分からない/答えがたがらない
- 家庭学習を続けるべきか
- 誰にも相談できない





心配な状態が続いている

- ゲームやSNSに没頭して昼夜逆転している
- 学習の進度が遅れ、学校の授業についていけない
- このままでは、将来、進学や就職できないのでは





困ったときは相談してください。

学校への登校に関する相談窓口

①登校に関する相談窓口

名称	概要	問合せ先	
磐田市教育委員会 学校教育課 教育支援グループ	・電話・面談による不登校に関する相談	TEL:0538-37-4923 住所:磐田市国府台3-1 西庁舎3階 (平日8:30~17:15)	
こども若者家庭 センター (こども相談ダイヤル)	・子育てに関する全般的な相談(不登校、ヤングケアラーに関する相談を含む)	TEL:0538-35-4317 住所:静岡県磐田市国府台57-7 1Fプラザ2階 (平日8:30~17:00)	
教育支援センター (あすなる)	・市の教育支援センターの利用に関する相談	TEL:0538-33-5198 住所:磐田市弥藤大島500番地1 (平日8:30~17:00)	
静岡県総合教育 センター	・不登校や学校生活、家庭生活、子どもの心や発達に関する教育相談	TEL:0537-24-9738(予約制) 住所:掛川市富部456番地 (平日9:00~17:00)	

②不登校の保護者の会

名称	概要	活動場所・頻度	連絡先
あすなるの会	磐田市教育委員会が主催する保護者の会です。「あすなる」に入社していないくても誰でも参加できます。	場所:教育支援センター あすなる内 頻度:月に1回	
不登校を考える 親の会・磐田	この会の発足は1996年、「不登校をマイナスの事と考えない。親の互助会とする」という思いから始まった会です。	場所:ふれあい交流センター 頻度:月に1回程度	
ツナガル居場所	不登校や登校決り、LD、発達障害等に悩む当事者やご家族へ、官民・市内外の関連情報を共有・相談が可能。親子で日中安心して過ごせる場所を提供しています。	場所:(月)見付長屋文庫 (木金)中泉・輪花 開催日:月・木・金(土)	
コーヒーの会	一人で抱え込まなくていい...そんな安心感にふれる場所。親子がもっと幸せになれる場所。見付にある珈琲店で、ゆっくりコーヒーを飲みながら、新しい情報を知りたい、経験者の話を聞	場所:見付にある珈琲店 頻度:奇数月の第3水曜日 (2025年4月10日)	

施策6 タブレットを用いた学習支援体制の確立

⇒ 多様な学習機会の提供

・希望に応じた**授業の配信**

・**メタバース空間**での支援の研究



県が仮想空間メタバースで不登校に“学びの場”を(静岡)

6/21(金) 18:36 配信



Daichi-TV(静岡第一テレビ)

静岡県は2025年度をめぐりに、不登校となった子どものために仮想空間メタバースに“学びの場”を開設する予定です。

全国的にも広がる仮想空間の学びの場のような場所なのでしょうか。

全国でおよそ30万人といわれる不登校。

県内では不登校の生徒や児童の数は年々増加。2022年度には小学生3321人中学生6166人と5年前のおよそ2倍になっています。

☆ 今後の課題

① 「どこともつながりのない子」をゼロに！

- ・校内教育支援センターの設置促進
- ・他機関や民間団体との連携の強化



② すべての子にとって魅力ある学校へ！

- ・分かりやすい授業/探究的な学びの推進
- ・学校の風土の調査・改善

